

躍進する

敦賀港

敦賀港では、環日本海時代を迎え、対岸諸国とのコンテナ貿易に力を入れています。コンテナとは、荷物を入れて運搬する四角い鉄の箱のことをいいます。万国共通サイズで統一されているため、どの国でも効率的な荷さばきが可能です。世界をつなぐ輸送手段として国際輸送の主役となっています。

現在、敦賀港には、韓国釜山との定期コンテナ貨物船が週三便、大連、青島に寄港する丹東との定期コンテナ貨物船が週一便就航しています。平成十四年の敦賀港のコンテナ取扱量は、一万四千四百七十七TEU（二〇フィートコンテナに換算）。過去五年間で二倍以上に増え、韓国航路、中国航路ともに順調に伸びています。特に、世界の工場といわれ急速な経済発展をとげる中国からアパレル製品や電化製品、家庭雑貨用品などの貨物が増えています。

敦賀港は、日本海の港の中でも関西、中京の二大経済圏に最も近く、交通アクセスも整っています。通関手続きが早く、顧客に荷物をいち早く渡すことができ、輸送コストも安くあがります。昨年一月

には、小口荷物をコンテナに詰めたり取り出したり、また受け渡しを行う荷さばき施設（F S）（コンテナフレートステーション）も整備され、小口ユーザーの利便性が高まりました。このような利点に引かれて、敦賀港を利用する企業が増加し、全国から注目されています。

さらに敦賀港で取り扱うコンテナ貨物を増やそうと、新規ユーザーの開拓や定期航路の拡大を目指し、県や敦賀市、（社）敦賀港貿易振興会では、国内をはじめ、中国の丹東、大連、青島や韓国で企業を訪問したり、説明会の開催を行うなどポートセールスに力を入れています。

国内定期航路も充実

敦賀港と北海道苫小牧港との間に、日本海側で初めて、R O R O船と呼ばれる貨物専用船の定期航路（週六便）が開設されています。R O R O船は、トレーラー百二十台分の荷物を積載でき、船の中に乗り入れたトラックから貨物の入った荷台だけはずして積み込みます。クレーンを使わず貨物の積み下ろしができ、荷役作業の効率

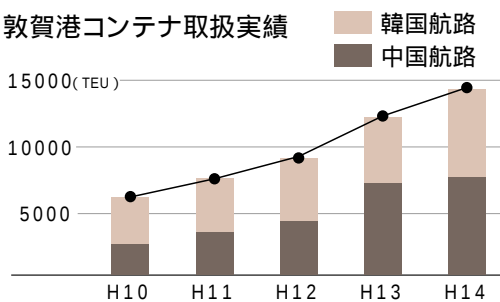
が上がり、物流コストの削減ができます。

敦賀港には、旅客と貨物を輸送するカーフェリーも就航しています。昨年九月から、小樽航路に代わって、運航時間が短縮された苫小牧航路直行便が毎日就航するようになりました。新潟、秋田に寄港する苫小牧行きの四便と合わせて十一便あるカーフェリーは、関西・中京と北海道を結ぶ大変重要な役割を果たしています。国内貨物の取扱量がさらに増加し、敦賀港は活気に満ちています。

着々と進む敦賀港の整備

県では、国と連携して、迅速で円滑な物流機能の充実を図るため、港湾整備を進めています。鞠山南地区で船舶の大型化に対応できるよう多目的国際ターミナルの整備を急ピッチで進めています。

三月二十六日、敦賀港の新港地区と本港地区を最短距離で結ぶ「金ヶ崎臨港トンネル」が完成しました。トンネルの完成により輸送・移動時間の短縮が期待されています。また、敦賀港発祥の地、金ヶ崎には港町をイメージしたレトロ調の休憩所などがある緑地が整備され、たくさんの市民や観光客が憩いの場として訪れています。敦賀港は、対岸貿易や国内輸送の拠点として、また、交流の場としてますます発展が期待されています。



韓国釜山定期航路

週3便 釜山→敦賀→釜山

中国丹東・大連・青島定期航路

週1便 丹東→大連→青島→敦賀→丹東



航路図



トレーラー120台分の荷物を積載できるR O R O船



3月26日に完成した「金ヶ崎臨港トンネル」



憩いの場となっている「金ヶ崎緑地」



全国から注目される敦賀港のコンテナ貿易



中国青島でのポートセールス



取扱貨物が増加する敦賀港